



# 以森伝心

No. 48

前理事長 柏原康夫筆

京都の森を守り育てる運動に参加しませんか

巻頭特集

## 気候変動と生態系は不離一体。

- ガールスカウトの緑の少年団活動
- 京都の森の仲間たち  
亀岡里山クラブ
- 企業等参加の森林づくり





2021年10月31日から2週間にわたり、イギリスのグラスゴーにて開催された第26回気候変動枠組条約締約国会議（COP26）には、世界196か国と欧州に加え、先住民族や若い世代、市民団体や企業等から約10万人が参加。最終日には、気温上昇を1.5℃に抑える目標を維持する「グラスゴー気候合意」を採択し、閉幕した。

今回のCOPはまた、100を超える国と地域の首脳や代表が「森林と土地利用に関するグラスゴー首脳宣言」を発表するなど、森林や自然がかつてないほど取り上げられたことでも注目された。

そこで、長年COPに参加してきた「特定非営利活動法人 気候ネットワーク」の浅岡美恵理事長に、今回のCOPのポイントと森林が期待されている役割について、お話をうかがった。

# 気候変動と生態系は不離一体。

特定非営利活動法人 気候ネットワーク 理事長 浅岡美恵

## COPの歴史における、第三の節目

「一番のポイントは、『2℃を十分に下回る水準に抑制し、1.5℃に抑える努力を追求する』としていたパリ協定の長期気温目標から一歩踏み込み、『1.5℃目標』がグラスゴー気候合意の中心に位置づけられたことですね」

インタビュー冒頭でお願いした「難しいデータや専門用語は避けて……」を意識してか、平易な表現を選びながら話し始めた浅岡美恵理事長。

そもそも、気候変動枠組条約締約国会議（COP）は、地球温暖化の防止のために大気中の温室効果ガスの濃度を安定化させることを最終目的に1995年から始まった取り組みで、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って中止された2020年を除き、毎年開催されてきた。COPの歴史のなかでも大きな節目となったのが、1997年のCOP3で採択された「京都議

定書」と、2015年のCOP21で採択された「パリ協定」とのこと。

「京都議定書は、温室効果ガス排出量の削減について国際的な数値目標を初めて定めた、画期的なものでした。日本やアメリカ、EUなど先進国がまず排出削減に取り組むこととし、2008年から2012年までの間に、日本1990年比6%、アメリカ7%、EU8%、先進国全体で5.2%削減が法的義務とされました」

そして、京都議定書の採択を受け、翌98年に「特定非営利活動法人 気候ネットワーク」が発足。以来、特別な事情がない限り、浅岡理事長はCOPに参加し、その変遷を見守り続けてきた。

「具体的な数値目標が定められ、排出削減が義務づけられた京都議定書の意義は非常に大きかったも

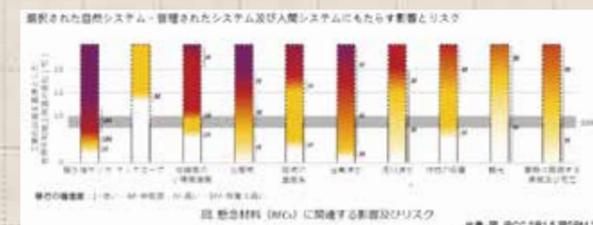
の、その後、課題も出てきました。そのひとつが、2001年に当時の最大の排出国であったアメリカが京都議定書から離脱したことです。日本も第2約束期間（2013年～）に不参加を表明していました。また、今世紀に入って、中国、インド、ブラジルなど中進国の排出量が増加してきました。さらに、平均気温が産業革命前から1℃上昇し、世界で気候災害による被害が目立つようになってきました。そこで、第1約束期間以降（2013年以降）はアメリカも途上国も含め世界全体で取り組む体制の構築が不可欠との認識が広がり、まず、2010年に気温上昇を2℃未満に抑えることを合意しました」

こうして、すべての国が排出削減に取り組む新たな国際枠組みを目指して交渉が続けられ、2015年に「パリ協定」が採択された。パリ協定は「気温上昇を2℃を十分下回る水準に保ち、1.5℃に抑えることにも努力すること」を目的とし、そのために21世紀後半には世界の排出を実質ゼロとすることを盛り込んでいる。

「先進国だけでなく、気候変動枠組条約に加盟している196カ国すべてが温室効果ガスを削減目標を設定、報告し、政策措置をとることを義務とした点で、気候変動対策における歴史的な転換点と言えます」と、浅岡理事長はCOPの2つの節目について概説した。しかし、冒頭で浅岡理事長が指摘した「2℃を十分に下回る水準、できれば1.5℃に抑える努力」としていたパリ協定から、より「1.5℃目標」に重点をおいたグラスゴー気候合意への変遷について、疑問が残る。

「それは、2018年10月にIPCCが発表した『1.5℃特別報告書』によります。この報告書のなかで、『気温上昇が2℃のときの影響は甚大で、1.5℃でも影響は大きい、人間と自然生態系にとって明らかな利益となり、より持続可能で公平な世界を確保する可能性がある』ことを示したのです」

IPCCは、地球温暖化や気候変動について科学的な評価を行っている国連の組織「気候変動に関する政府間パネル」の略で、特別報告書は、国連気候変動枠組条約（UNFCCC）が2015年のパリ協定採択に伴う要請を受けて、40カ国91人の執筆者と査読者が作成。特別報告書は、世界の平均気温が1.5℃上昇した場合の気候システムの変化と、それに関連する生態系や人間システムへの影響について、リスクの大きさとパターンに着目した科学的根拠を新たに評価している。さらに、1.5℃上昇の場合と2℃上昇の場合では、生態系や人間システムへのリスクがどの程度異なるかにも着目して予測している。



IPCC 1.5℃特別報告書（2018年）の1.5℃と2℃の気温上昇による自然や管理されたシステム及び人間システムへの影響とリスクの水準を示した図。暖水性サンゴは1.5℃上昇でもほぼ壊滅し、低緯度の小規模漁業、北極域、沿岸洪水も1.5℃でも影響は重大。陸域の生態系、作物の収穫、河川の洪水は1.5℃では現状程度だが、2℃に近づくと影響やリスクが大きくなることわかる。

## ジョンソン首相が示した4つの主要テーマ

「COP26では地球温暖化防止に向けて『緩和』『適応』『資金』『協力』の4つの目標が掲げられたのとは別に、議長国イギリス・ジョンソン首相が発表した4つの主要テーマがありました。そのひとつが石炭。クリーンエネルギーの急速な拡大と石炭火力の早期廃止は、議長国イギリスが掲げた最重要課題で、エネルギーについて話し合うエネルギーデーには、47の国と金融機関・組織が石炭からの脱却を約束するなど、石炭廃止に向け大きく進展しました」

浅岡理事長の説明で驚いたのは、「主要な国際銀行は、削減対策がされていない石炭火力発電への新たな国際的な公的融資を2021年末までにすべて終了する」「少なくとも34の国と公的金融機関が、2022年末までに海外の削減対策がされていない化石燃料エネルギーへの公的支援を終了する」等の約束。そして、そうしたトレンドのなかであって、「石炭火力発電の段階的廃止および新規の石炭火力発電を行わない」と表明した国のなかに、石炭使用量上位10に入る韓国やインドネシア、ベトナムが含まれている一方で、4位の日本が入っていない点。

「どうしてヨーロッパ各国が石炭を廃止できるのかと言えば、早くから再生可能エネルギーの大量導



COP 26の会議場を背景にして

入が進んでいるからです。供給量が2倍になるとコストが半分になるという法則があって、今日では再生可能エネルギーが一番安いというのが世界認識。これに対して日本は再エネの取り組みが遅れ、導入量はドイツやイギリスの半分にとどまっています」

脱石炭に踏み切れない日本が打ち出したのが、石炭火力の脱炭素化。CO<sub>2</sub>を回収する方式のほか、燃やしてもCO<sub>2</sub>が出ないアンモニアを混ぜる方式の実用化を掲げる。しかし、これには問題が多いと浅岡理事長は指摘する。

「そもそもの脱石炭の流れにそうものではなく、あくまで従来の方式を微修正しただけに過ぎません。また、化石燃料による水素でアンモニアを製造するもので、ほとんどCO<sub>2</sub>の排出削減になりません」浅岡理事長の指摘は続く。

「イギリスでも2010年くらいまでは再エネはとても少なかったが、今では電力の約40%を占めています。特に洋上風力発電が盛んで、海がまるで風車の林のように見えるほど。さらにアフリカ諸国の脱石炭に向けたパートナーシップも進めています。政治の判断も速いが国民意識の転換も速く、ビジネス界も動いている、これがヨーロッパの先駆性なんでしょうね。かたや、従来型を売り込もうとしている日本。途上国は、どちらを選ぶのでしょうか」

## 森林の大切さが再認識された 初めてのCOP

「ジョンソン首相が示した4つの主要テーマは、coal（石炭）、cash（資金）、car（電気自動車）とCばかり続くなあと思っていたら、4つ目はT（tree 森林）でした」

テンポの速い鋭い指摘の後、にこやかに切り出した浅岡理事長の言葉に、場の空気も和んだ。確かに今回の会議で、森林は重要なテーマとして取り上げられ、COP開催中、議長国イギリスのリーダーシップによって実現した「世界リーダーズ・サミット」2日目のテーマが「森林と土地利用」であった。そして、100を超える国と地域の首脳や代表が、2030年までに森林破壊を終わらせると約束する文書（森林と土地利用に関するグラスゴー首脳宣言）に署名。署名国には、アマゾン川流域の熱帯雨林で大規模な森林伐採を進めているブラジルも含まれていた。



「世界リーダーズ・サミット」(右上)では、大規模な森林伐採が進むアマゾン川流域の熱帯雨林(左下)についても真剣に論議され、「森林減少ストップ宣言」が採択された。

今回のCOPで最初の主要宣言を報告したジョンソン首相は、「森林の壊滅的な喪失を止めなくてはならない」「人類は自然の支配者というこれまでの役割を終え、自然の管理人にならなくてはならない」と添えた。

「今のまま進んでいったら、森林はCO<sub>2</sub>の吸収源ではなく排出源になってしまいます。そういう意味では、森林の機能を高めることは気候変動対策だけでなく、生態系を守ることにもつながります。コロンビアの環境副大臣も述べておられましたが、気候変動と生態系は不離一体です。森林の機能を高めることの大切さが再認識された、初めてのCOPでしたね」

COP26の会場で開かれた「気候変動と生物多様性に関するイベント」では、「気候変動と生物多様性喪失の二つの問題は絡み合っているとの指摘が多くなされ、コロナ問題もその延長でとらえられていました」浅岡理事長はさらに語気を強める。

「戦後日本は、平和のなかで高度成長を遂げ、豊かさを謳歌してきました。でもその裏で自然を犠牲にしていた部分があり、そのツケが今になって露呈されている。そうしたツケを将来世代に押し付けるわけにはいかない、そうした意識を一人でも多くの人に持ってもらい、行動に移してもらうために、気候ネットワークは今後も活動を続けていきたいと思っています」

## ガールスカウトの緑の少年団活動

一般社団法人ガールスカウト京都府連盟 佐藤啓子



ガールスカウトでは、45年ほど前に上賀茂と大原に研修林を持ち、「緑の少年団」として森林整備活動を行ってきました。下草刈りや枝打ちなど月に1回の活動で、スカウトたちは自然の中で活動する楽しさを身をもって感じてきました。年が経つと研修林の樹木も大きくなり、スカウトたちの手には負えないほどの大きさに育ちました。

最近では、年に4~5回の活動になり、森林インストラクター会の方に講師をお願いし、季節にあった活動を行っています。春には野草について学んだあと、天ぷらにしていたいだいたり、秋には枝打ち体験や焼き芋にチャレンジしたり、冬にはツルやシダを使ってクリスマスリース作りなど楽しい活動がいっぱい。また、樹木に名札を付ける活動では、その木に対して何か特別の感情が芽生えることもあります。こうした活動の積み重ねで、自然を大切に思う気持ちが育つのだと思っています。

しかし、昨年からのコロナ禍で、野外での活動とはいえ密を避けるため、緊急事態宣言下では活動を中止することが多くなりました。自然の中に身を置き、身体全体で自然を感じる活動は、オンラインでは実施し難いものです。10月に緊急事態宣言が解除され、11月・12月と続けて緑の少年団活動ができたことはスカウトたちにとって嬉しいことでした。森林インストラクター会の講師の方々に多くのことを教えていただき、自然の中で行う仲間との体験活動が、少女たちの成長にとって大切なものであると改めて感じました。

私たちガールスカウトはSDGsにも積極的に取り組んでいます。SDGs15に「陸の豊かさを守ろう」として、「陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る」とあります。地球規模で大きな自然災害が発生しており、広範囲な山火事や大雨による土砂災害や台風による倒木など、私たちの身の回りで起こっています。緑の少年団活動を通して、この大切な地球を守るために私たちができることを自ら考え、少しずつでも実行できる少女に育つことを願っています。

# 京都の 森の仲間たち

## 亀岡里山クラブ (亀岡市)



400年以上前から京の都に木材や穀物、薪炭を供給してきた、ゆるやかな山に囲まれた亀岡市。同市内の神前地区で、里山の整備に取り組まれている「亀岡里山クラブ」の小原さんにお話を伺いました。

### ——市民ボランティアが中心となり 設立

当会は、平成15年に亀岡市が「共育の森づくり」として森林ボランティアを募集した事業に参加した市民が中心となり活動を開始しました。当初は市が主導で行事を



実施していましたが、平成17年に独立した団体として会が発足しました。今年で発足16年目を迎えます。

活動の中では、主に常緑の広葉樹の伐採を中心に行い、明るい里山を目指しています。そのほかに必要となる作業道の敷設や、しいたけ原木の切り出し、薪の生産なども行っています。活動地に隣接してキャンプ場があるため、最近薪づくりの比重が増えつつあります。



### ——地元との関係を大切に した森林づくり

私たちの会は、地域の森林整備について話し合う神前連絡協議会に参加し、地元の方や行政、対象エリアで森林保全活動をされている企業とも情報を共有しながら活動を行っています。

このあたりももともとは地元の皆さんが管理されていた山でしたが、高齢化などで森に入られる方が減り、そのままになっていたところを、我々がお手伝いすることで喜んでいただけるのが励みになっています。山での作業を楽しみにしている会員が多く、地元の方にも喜んでいただけるし、我々も楽しい、そうした好循環を大切にしています。



作業を楽しみにしている会員が多く、地元の方にも喜んでいただけるし、我々も楽しい、そうした好循環を大切にしています。

### ——継続した活動に向けて

活動当初は30人近く会員がいましたが、近年は20人弱で推移しています。毎年独自でボランティア体験会を開催し、市民の参加を募っています。市が広報に協力してくれることもあり、おかげさまで毎年数人参加がありますが、高齢等で会の活動を「卒業」するメンバーも出てきていますので、安定した人数確保も課題です。

作業の安全面については気を付けており、会員には研修へも積極的に参加してもらっています。おかげさまでこれまで事故はありません。これからも安全第一で、怪我なく、長く活動が続けられたらと思っています。

#### 団体プロフィール 亀岡里山クラブ

設立：2005年  
活動地：亀岡市神前地区  
会員数：19名  
活動概要：里山林の整備、薪の生産、しいたけの原木づくりなど

# 企業等参加の森林づくり活動報告

府内各地で地域と連携して森林保全の活動に取り組んでおられる企業・団体の活動について、今年度行われた活動からピックアップしてご紹介します。

(協会に送付いただいた活動報告より抜粋して掲載しています)

5月22日(土)	エスベック株式会社	オンライン
5月22日(土)	オムロン株式会社綾部事業所	綾部市
6月26日(土)	エスベック株式会社	福知山市
10月2日(土)	グンゼ株式会社	綾部市
10月9日(土)	株式会社島津製作所	南丹市
10月30日(土)	エスベック株式会社	福知山市
11月6日(土)	グンゼ株式会社	綾部市
11月6日(土)	一般社団法人京都府トラック協会	京都市
11月13日(土)	京セラ株式会社	京田辺市
11月13日(土)	関西電力労働組合京都地区本部	京丹波町
11月20日(土)	関西電力労働組合京都地区本部	京丹波町
11月20日(土)	三洋化成工業株式会社・一般財団法人三洋化成社会貢献財団	和束町
11月27日(土)	KDDI株式会社関西総支社	大山崎町
11月27日(土)	オムロン株式会社綾部事業所	綾部市
11月27日(土)	三共精機株式会社、佛教大学	南丹市
11月27日(土)	株式会社虎屋京都工場	南丹市
12月18日(土)	エスベック株式会社	福知山市



オムロン株式会社綾部事業所



エスベック株式会社



グンゼ株式会社



株式会社島津製作所



一般社団法人京都府トラック協会



一般財団法人三洋化成社会貢献財団



京セラ株式会社



KDDI株式会社



関西電力労働組合京都地区本部



三共精機株式会社、佛教大学



株式会社虎屋京都工場

令和3年12月20日(月)

#### オンライン情報交換会開催

新型コロナウイルスの感染予防対策を踏まえた森林内での活動再開に向け、担当者の皆様を対象とした情報交換会を昨年に引き続きオンラインで開催。

KDDI株式会社関西総支社様、株式会社島津製作所様に最近の活動状況等について事例発表いただきました。

# 事務局からのお知らせ - 活動報告 -

令和3年10月3日、9日 京都市、与謝野町  
森林・山村多面的機能発揮対策活動組織  
現地見学会・安全講習会開催

林野庁の同事業に取り組みられている活動組織の皆さんを対象に、安全講習と現地交流会を実施。安全上の注意や機械のメンテナンスの講習に続いて、実際に活動されているフィールドを見学されました。



令和3年10月26日  
「森の出前授業」ノートルダム学院小学校

4年生の皆さん123人が、京都森林インストラクター会の指導で同校の山の家で学習しました。森林のはたらきのお話を聞いたあと、ノコギリを使った木の切り方の指導を受け、実際にリョウブの木の名札づくりに挑戦しました。



令和3年11月7日 京都府八幡市  
国際ソロプチミスト京都  
「こども森づくり・体験学習会」

石清水八幡宮の田中権禰宜から、石清水八幡宮の鎮守の杜についてのお話、また八幡の竹を使っての白熱電球の長時間点灯、実用化に成功した世界の発明王エジソンとのゆかりについてなどのお話を伺いました。続いては、特定非営利活動法人八幡たけくらぶの皆さんに竹林の手入れについてのお話を聞き、竹細工づくりに挑戦しました。午後からは、森林インストラクターの皆さんと一緒に鎮守の杜の話の聞き、虫メガネで葉っぱを観察しながら下山しました。



令和3年11月28日、12月4日 京都市右京区  
株式会社中央倉庫協賛  
「秋の森で遊ぼう！ならびがおか森の探検隊」

京都市右京区のならびがおかを会場にこども森づくり・体験学習会を開催。森林インストラクターの皆さんのお話を聞きながらならびがおかを「三の丘」から登り、虫メガネで熱心に葉っぱや木の幹を観察したり、おみやげの森の時計づくりセットに飾りつけるどんぐりや万華鏡に使うきれいな色の葉っぱなどを集めました。そのあとは二の丘の頂上で記念撮影をし、ならびがおかの森を探検しながらこまねびのひろばにゴールしました。



## 緑の募金ご協力をお願い

緑の募金は、地域や学校の緑化活動や、未来を担う子どもたちの森林環境教育などに使われています。皆様のご協力をお願いいたします。



### ●郵便振替や銀行振込で

どこでも、誰でも募金ができます。

#### 1. 郵便振替

00990-1-83253 公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

#### 2. 銀行振込 京都銀行府庁出張所

普通 3154305 公益社団法人 京都モデルフォレスト協会  
理事長 安藤 孝夫



令和3年募金実績

14,247,367 円

ご協力ありがとうございました。

### ●商品購入や募金箱で

「緑の募金付き商品」を購入したり、各所に設置された「緑の募金箱」に直接募金することで、ご協力いただけます。「緑の募金付き商品」開発・販売や募金箱の設置等、様々な形でご協力いただける店舗様、事務所様も募集しています。



## 京銀アプリで

銀行取引をもっと手軽に！

口座  
開設

残高  
照会

振込  
振替

投資信託  
外貨預金

クーポン  
チャット 等



まずはダウンロード▼



京銀アプリ

## 京都銀行

(2021年11月1日現在)

発行: 公益社団法人京都モデルフォレスト協会  
〒604-8424 京都市中京区西ノ京樋ノ口町123 京都府林業会館3階

TEL&FAX 075-823-0170 E-mail kyomori@kyoto-modelforest.jp

URL <https://www.kyoto-modelforest.jp>

<https://www.facebook.com/KyotoModelForest>

入会案内資料をご希望の方は  
ご連絡ください。